岩手県立博物館だより

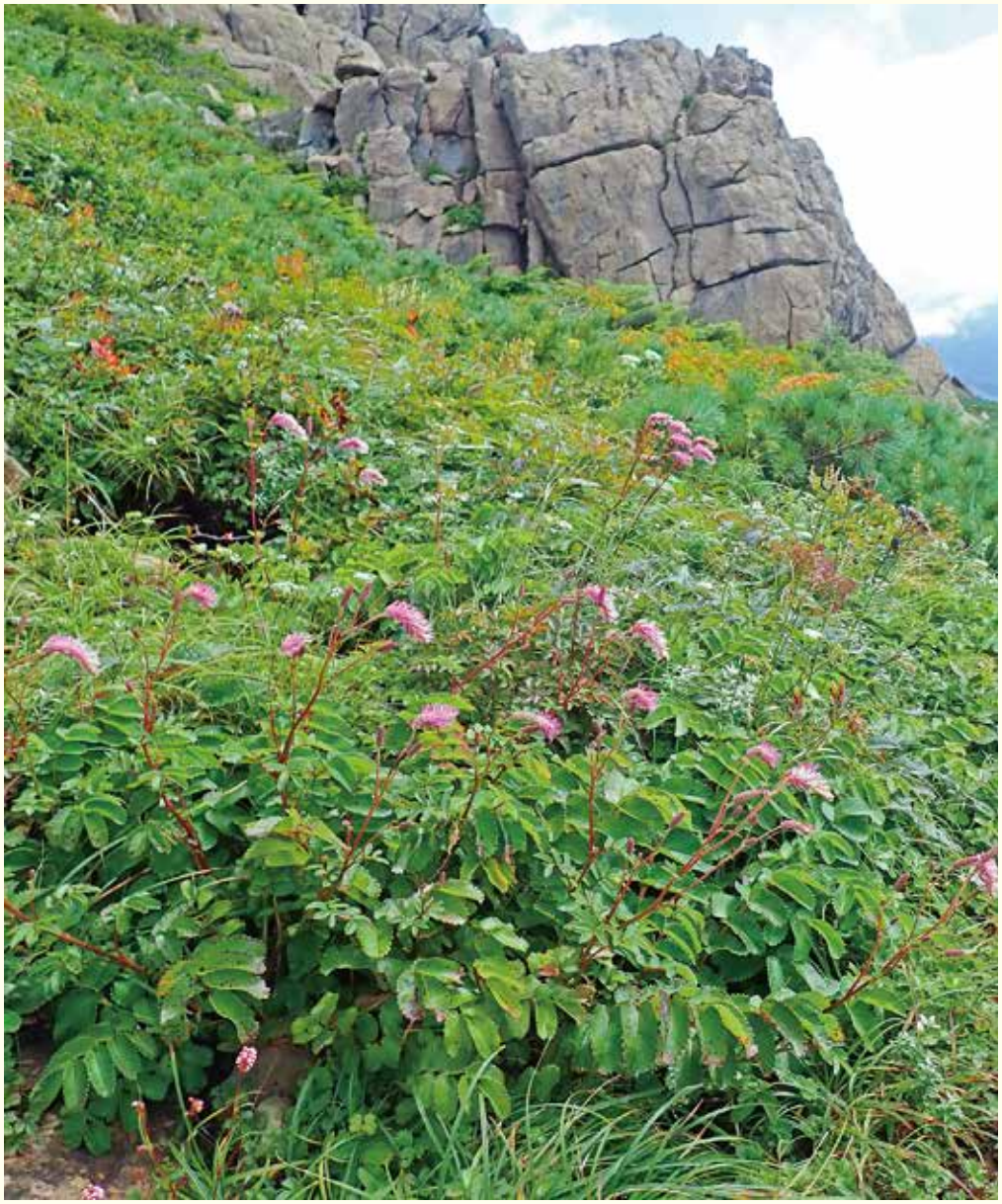
Newsletter of the Iwate Prefectural Museum
岩手県立博物館ホームページアドレス
https://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

2023. 9 No. 178

目次／テーマ展「早池峰山の花と森」**表紙**／いわて文化ノート①「津波被災資料再生の12年」**p.2**／いわて文化ノート②「東日本大震災被災博物館・文化財等の現在、そして未来」**p.3**／テーマ展「早池峰山の花と森」**p.4-5**／事業報告「四十四田ダムの森を探検!」／事業報告「県博バックヤードツアー（2023年度「国際博物館の日」関連事業）」**p.6**／事業報告「第85回地質観察会　大船渡市の石炭紀の生物を見る」／資料紹介「岩手県立博物館デジタルアーカイブから」**p.7**／インフォメーション **p.8**

テーマ展

早池峰山の花と森



８月も後半になると、早池峰山固有種ナンブトウウチソウの花穂が風になびき、秋の訪れを知らせる。

■いわて文化ノート①

津波被災資料再生の12年

主任専門学芸員　丸山　浩治（文化財科学部門）

■ 12 年経った今も

東日本大震災で被災した本県の文化財や自然史資料は 100 万点ともいわれています。発災後数カ月にわたりレスキュー作業が行われた結果、約 50 万点が見つけ出され、県内外の専門機関が協力して保存作業に当たってきました。しかし、これほど膨大な数の処理には多くの時間が必要で、特に被害の大きかった陸前高田市の資料は今なお作業が続けられています。

■あらゆる資料が被災した陸前高田

陸前高田市立博物館内での捜索（2011.4.21）

陸前高田市で救出された資料は約 46 万点に及び、内容も多岐にわたります。

- 古文書や絵図、貴重書、明治以降の行政文書や学校日誌、博物学者・鳥羽源藏氏関連品などの紙資料
- 漁撈用具をはじめとする民俗資料
- 油画、アクリル画、水彩画などの絵画資料
- 高田歌舞伎衣装などの繊維資料
- 金属器、骨角器、土器などの考古資料
- 貝類標本、昆虫標本、植物標本などの自然史資料

素材も形も多様で、しかも資料個々に状態が異なる上、種別ごとに修理の手法や作法も違います。基本的にはそれぞれに長けた専門機関が対処方法を検討しましたが、津波がもたらした劣化誘因物質を除去する安定化処理が必要になることはすべてに共通していました。

■最大の課題は安定化処理

安定化処理のため資料を水に浸漬している様子（2023.4）

水損資料を処理する際の基本は、汚損誘引物質の除去と乾燥を行うことです。津波被災資料の場合、塩分除去が最大の懸案でした。塩は水分を引き寄せ、湿ることでカビが発生し、カビをエサとする虫が増え、結果、資料が汚損されることになるのです。当館では、2011 年４月２日に県有形文化財「吉田家文書」が搬入されて以降、まずは紙資料に対する安定化処理方法を模索して、一定の方法を定めました。具体的には、次亜塩素酸ナトリウムを使った殺菌と、水への浸漬による脱塩で、これを民俗資料にも応用していきました。しかし数年後、経過観察中の紙資料と民具の一部に異常が見つかります。

分析の結果、それを引き起こした原因はヘドロ由来のタンパク質と浸漬中に増えた嫌気性のバクテリアであることがわかり、これ以降、医療用の中性洗剤を使った洗浄・除菌作業を新たに加えるとともに、浸漬時間の短縮を進めました。一方で次亜塩素酸ナトリウムの使用は止め、できるだけ資料に負担のかからない処理方法の模索を続けました。2023 年６月現在、処理後の資料に以前のような異常は確認されていません。

津波被災資料に対する安定化処理は世界的にも未経験で、試行錯誤しながら一から構築し、その時々で最善の方法を採用し実行してきました。しかしこれを適用できないものも相当数存在します。資料を永く後世に伝えるため、「今できる最善の方法」の模索は今後も続きます。

■再生された資料・復活した博物館

安定化処理及び修理を施した資料は順次返却され、一部は 2022 年 11 月５日に復活した新しい陸前高田市立博物館に展示されています。今年の３月 22 日に国の重要有形民俗文化財に指定された「陸前高田の漁撈用具」もその一つです。展示品の大半が被災資料という他に類を見ないこの博物館は、モノとしての資料のみならず、そこに刻まれた被災と復興の履歴も同時に伝えていく、重要な使命を有しています。

ともすれば震災後に無くなっていたかもしれない、地域の歴史を物語る資料たち。これを守り、復活させた原動力は、被災直後の博物館１階に書置きされていた１枚のメモと、仮設博物館として修復作業が続けられてきた旧陸前高田市立生出小学校の玄関に掲げられた言葉に集約されている、と常々思っています。

被災直後の陸前高田市立博物館にあった筆者不明の書置き「博物館資料を持ち去らないで下さい。高田の自然・歴史・文化を復元する大事な宝です。」（新博物館の展示室入口に復元展示されている）

仮設博物館（旧生出小学校）玄関に掲げられた言葉

■いわて文化ノート②

東日本大震災被災博物館・文化財等の現在、そして未来

専門学芸調査員　目時　和哉（歴史部門）

■防災力向上プロジェクト

東日本大震災で被災した博物館や文化財等の再生に向けた取組を後押しするとともに、いつ、どこで起こるとも知れない次なる大規模自然災害に備えるため、最新の海水損資料安定化処理の方法論を広く共有することを目的として、被災県に所在する当館や陸前高田市立博物館が、日本博物館協会、東京国立博物館をはじめとする全国の専門機関と連携して「大津波プロジェクト」と通称される事業を立ち上げ、2014年度以降文化庁の助成金を活用しながら全国各地で展覧会やワークショップ等の活動を展開してきました。

2022年度からは、10年にわたる同プロジェクトの活動を発展的に継承する形で、「東北発 博物館・文化財等防災力向上プロジェクト実行委員会」（中核館：当館）を組織し、東日本大震災を経験した岩手、東北から、博物館や文化財等の防災力底上げをはかることを目指した取組に着手しています。

ここでは3つの主要事業から構成された2022年度の活動概要についてご紹介していきます。

■博物館を核とした自然災害被災地の文化復興モデル構築事業

陸前高田市では、旧吉田家住宅主屋及び吉田家文書（近世気仙郡大肝入家の住宅及び政務日誌等）という2つの県指定文化財が、東日本大震災における被災を乗り越え、継承されようとしています。

当プロジェクトでは、今後地域の歴史的アイデンティティとなるであろうこれらの文化財を活用した、文化復興モデルの創造に取組んでいます。

旧吉田家住宅主屋に関しては、一度完全に流出した有形文化財復旧の歩みを映像化しました。作業の記録保存に留まらず、2024年度末まで続く見込みである復旧事業のファンドレイズなどにも幅広く活用されることが期待されます。

一方、吉田家文書に関しては、一般の方も容易に江戸時代の古文書を活用できるようになることを目指し、データベースを構築しました。東日本大震災で失われたものについても震災以前に撮像されていた画像を搭載したほか、今後市立博物館における教育普及活動などを通して、市民が自らの手で一層の充実化をはかることができるような仕様となっています。

旧吉田家住宅主屋復旧過程空撮映像

■岩手県版文化遺産防災マップ整備事業

東北大学災害科学国際研究所の先駆的な取組にならい、岩手県内の自治体と共同で、各種の指定文化財等と様々なハザード情報を重ねて表示することができるオンラインマップを制作しました。

それぞれの文化遺産の背景にある被災リスクが可視化されたことで、今後は被災前の積極的な防災体制整備の進展が期待されます。

岩手県版文化遺産防災マップサンプル画面

さらに、博物館・文化財等防災に関するノウハウを広く共有するための場として、日本博物館協会東北支部総会の開催に合わせ、博物館防災に関する研修会を新たに企画、実施しました。この研修会については今後も定期的かつ継続的な実施を予定しています。

■博物館・文化財等の防災力向上に向けた共同情報発信事業

相乗的な発信力強化を目指して、同じ東日本大震災被災地に立地する陸前高田市立博物館、石巻市博物館、とみおかアーカイブ・ミュージアムが連携し、各館の見学を追体験できるようなオンラインツアー動画を制作・公開しています。また、今後大規模震災の発生が懸念される名古屋市において、令和元年東日本台風で被災した文化財の再生に取組む川崎市市民ミュージアム・長野市立博物館と共同で展覧会を開催しました。会場となった名古屋市博物館は、陸前高田市立博物館と友好館の協定を結んでおり、同館所蔵のロダン作「考える人」が陸前高田市立博物館に貸与される予定であるなど、今後も更なる交流促進が期待されます。

名古屋市博物館における展覧会風景

■未来に向けて

防災力向上プロジェクトは2023年度も事業を継続し、その模様は専用サイトhttps://iwapmus.jp/bousai/（下の二次元コードからもアクセスできます）にて随時ご紹介していきます。

東日本大震災被災地の博物館や文化財の現在、そして未来を、引き続き見守っていただけると幸いです。

■展覧会案内

早池峰山の花と森

会期：令和５年９月23日(土)～令和５年12月３日(日)

はじめに

早池峰山の標高は 1917m。北上山地の最高峰であり、岩手県では岩手山に次いで２番目に高く、名実ともに岩手を代表する高山です。ちなみに北東北地方では３番目に高い山であるとともに、非火山性の山としては最も高い標高をもっています。

また、山の大部分が蛇紋岩という特殊な岩石を基盤としているため、他の山では見られない変わった植物も多く生えています。そのため早池峰山は、日本列島の高山植物の重要な生育地のひとつとして、昔からよく知られてきました。

一方、山のふもとには深い森が広がっています。開発の進んだ北上山地の中にあって、比較的原生的な森林が残されており、様々な生物がくらしています。かつてはこの地域で大規模な林業が行われていましたが、そのことはあまり知られていません。

本展では、早池峰山の花と森を中心に、その唯一無二の自然の価値と魅力を、研究史とともに詳しく紹介します。また、現在の早池峰山の生態系に迫る大きな危機についての調査結果を報告します。

１　早池峰の花

早池峰山に生える植物の中には、４つの固有種と、１つの固有変種が知られています。世界中で早池峰山塊にしか生育しない植物たちです。

最も有名なのは、早池峰の名を冠するハヤチネウスユキソウでしょうか。全体が白い毛でおおわれ、うっすらと雪をかぶったように見える草です。星のような苞に取り囲まれた小さな花の集まりが６月下旬頃から７月にかけて開きます。

この種は初め、英国のキューガーデンで植物学を学んでいた武田久吉により、エーデルワイスの名で知られるセイヨウウスユキソウの亜種の変種として記載されましたが、原寛と北村四郎の研究により、1935 年に独立した種 *Leontopodium hayachinense* とされました。基準になった標本はフランス人宣教師フォーリーが 1894 年に早池峰山で採集したものです。

早池峰山小田越登山道（六合目付近）

ナンブトウウチソウも早池峰固有種です。ロシアの植物学者マキシモヴィッチが、紫波町出身の採集家・須川長之助が「南部藩の高い山」で採集した標本をもとに 1873 年に記載しました。８月頃、桃色の花穂が一面に広がり、風になびく様は見事です。

ナンブトラノオは、あの牧野富太郎によって 1903 年に記載された固有種です。自身の採集品ではなく、岩手の和川仲次郎、鳥羽源蔵、染谷徳五郎らが採集した標本をもとに記載しました。ちなみに牧野自身が初めて早池峰山に登ったのは 1905 年のことです。

もうひとつの固有種ヒメコザクラは、事情が少し複雑です。ナンブトウウチソウと同様、須川長之助が採集した標本に基づいてマキシモヴィッチが 1867 年

ハヤチネウスユキソウ

ナンブトラノオ

に記載しましたが、採集地は「北日本のきわめて高い山」と記述されていたのみでした。これが早池峰山と推定され、ヒメコザクラは長らく早池峰固有種とされてきました。ところが、1971 年に一関市大東町の天狗岩山でも発見され、早池峰固有種ではなかったことが分かったのです。しかしその後、天狗岩山のヒメコザクラは乱獲によって絶滅してしまい、再び早池峰山のみで見られる種となりました。

本展では、こうした固有種をはじめ、早池峰山で見られる様々な植物や動物について、発見のエピソード等とともに標本や写真を数多く展示します。

2　早池峰の森

早池峰山の麓には、ブナとミズナラ等からなる原生的な広葉樹林があり、また少し上部にはヒノキアスナロ、オオシラビソ、コメツガなどの針葉樹の森が広がっています。現在これらの森林は多くが保護林となっていますが、かつて裾野では広く炭焼きなどが行われていました。またヒノキアスナロは「ヒバ」と呼ばれて近世以降さかんに伐採され、盛岡藩において建築材等として重用されていました。近代に入ると山麓に森林鉄道・軌道が整備され、さらに伐採が進み、「早池峰ヒバ」はブランドとして認知されるようになりました。

ところが第二次大戦後、カスリーン台風とアイオン台風による豪雨が広く東日本を襲い、各地で甚大な洪水被害が発生しました。特に早池峰北面ではアイオン台風がもたらした豪雨によって大規模な斜面崩壊が起き、土石流が閉伊川流域の町を襲ったため、多くの死傷者が出ました。この時、森林鉄道などの設備もほとんどが流失したのです。

小田越登山道三合目に現れたニホンジカ（2021 年にセンサーカメラで撮影）

その後、1970 年代には国の林業政策の見直しや全国的な自然保護運動の影響もあり、早池峰山の森林は多くが保護されることとなりました。

本展では、かつての林業の記録や、アイオン台風による土砂災害、その後の復旧と自然保護活動についても紹介します。

3　早池峰に迫る危機

現在、早池峰山には新たな危機が迫っています。ニホンジカの個体数増加に伴う植生の消失と生態系の崩壊です。

明治時代以降、乱獲により絶滅寸前まで追い込まれた東北地方のニホンジカは、保護政策のおかげで 1980 年代から増え始め、岩手県では五葉山周辺から北上山地全体に分布を拡大し、2010 年頃には早池峰山麓にも頻繁に出没するようになりました。

現在ではシカの群れが早池峰山麓に通年で生息しており、夏季には山頂付近にまで出没していることが調査によって判明しています。増えすぎたシカは林床の植物を食べ尽くすので、すでに中腹まで林床植生の消失と土壌の流出が進みつつあります。貴重な固有種を含む高山植物までも、存続が危ぶまれる状況となっているのです。

本展では、早池峰山周辺のニホンジカに関して県や東北森林管理局が実施している調査結果や、現在行われている対策などを詳しく紹介します。

関連イベント紹介

（1）文化講演会
令和５年 11 月３日（金・文化の日）
13:30-15:30　当館講堂　聴講無料
「日本の高山植物の過去・現在・行く末」
講師　工藤岳氏（北海道大学地球環境科学院 准教授）

（2）県博日曜講座
令和５年 11 月 26 日（日）
13:30-15:00　当館講堂　聴講無料
「早池峰山の花と森に迫る危機」
講師　鈴木まほろ（当館学芸員）

（3）展示解説会（要入館料）
令和５年９月 24 日（日）15:15-15:45
10 月７日（土）15:30-16:00
10 月 22 日（日）15:15-15:45

鈴木　まほろ（当館学芸員）

■事業報告

「四十四田ダムの森を探検！」（テーマ展「北上川上流五大ダム探検大作戦」関連イベント）

令和５年７月２日(日)

当館は、四十四田ダムのほとりにあり、敷地からダム湖まで約 250m の位置にあります。しかし、湖との間はコナラやミズナラ、ホオノキなどが生える森となっており、湖の様子は全く見えません。開催中の展覧会のテーマに合わせ、この森を「探検」するイベントを開催しました。

たった 250 mで探検だなんて大げさだと思われるかもしれません。しかし、立ち入る人の少ないこの森には楽に進めるところはほとんどなく、やぶをかき分けて進むと帰り道がわからなくなってしまうこともあります。慣れていなければ迷子になってしまう、立派な森です。

今回、５人の小学生を含む探検隊は、サンショウの葉のにおいを確かめたり、ヤマウルシの見分け方を学んだり、黄色い実をつけたモミジイチゴをおやつに食べながら奥へ進みました。水が湧き出してくる小川の源流部では、オランダガラシ（クレソン）がすっかりシカに食べられてしまっていることや、その下流にミルンヤンマの幼虫（ヤゴ）が生息していることを発見しました。

そんな自然豊かなところがある一方で、大量のごみが漂着しているところもありました。川から湖に流れてきたごみが、水位の上昇と共に湖畔に運ばれ残されたものです。ポイ捨てされたごみは消えることがなく、必ずどこかで問題を起こすことを目の当たりにしました。

森を抜けて到着した湖畔は完全なやぶになっていて、水辺まではとてもたどり着けないので、湖面が見えるところで記念撮影をして来たルートを戻りました。

往復１時間の探検でしたが、初めてのやぶこぎを楽しんでもらえたようです。夏休みには、カブトムシなどいろいろな虫も現れる森なので、迷子にならない範囲で森を楽しんでほしいと思います。

ダムの見える湖畔で記念撮影

（主任専門学芸員　渡辺　修二）

■事業報告

県博バックヤードツアー（2023年度「国際博物館の日」関連事業）

開催日：令和５年５月21日(日)

毎年５月 18 日は、ICOM（International Council of Museums；国際博物館会議）によって制定された「国際博物館の日」で、博物館が社会に果たす役割を広く普及・啓発することを目的として定められた記念日となっています。

当館では毎年５月 18 日を無料開館日としており、またそれにあわせて県博バックヤードツアーを開催しています。これは、普段は資料保護の観点から一般の方の立ち入りを禁止している博物館のバックヤードを特別に見学していただくツアーで、今年度は５月 21 日に開催しました。

今年は自然コースと歴史コースの２つのコースを設け、それぞれの収蔵庫や関連する設備の見学を行いました。

民俗部門の収蔵庫での見学の様子

午前中に行われた自然コースでは、生物部門と地質部門の収蔵庫の見学を行いました。生物部門の収蔵庫では、主に動物の剥製標本や多数の昆虫標本を観察しました。一方で、地質部門の収蔵庫では、化石や岩石標本のほか、大きなクジラの骨格標本などを見学しました。

午後に行われた歴史コースでは、歴史部門、民俗部門、考古部門の３つの収蔵庫を見学しました。歴史部門の収蔵庫では、岩手県にゆかりのある歴史的な絵画や手紙などを間近で見学しました。また、民俗部門の収蔵庫では昭和に作られ、当時使われていた蓄音機などの古い道具を実際に稼働させてみました。考古部門の収蔵庫では縄文時代の土器を実際に触ってみることで、その重さや触感を体感することができました。

岩手の自然や歴史に関する資料を保管し、後世に伝えることは博物館の担う大事な役割のひとつです。これからも当館ではさまざまな資料の収集保管を行うとともに、県民の皆様にこうした岩手の「宝物」を公開する機会を作っていきたいと思います。

（専門学芸員　望月　貴史）

■事業報告

第85回地質観察会「大船渡市の石炭紀の生物を見る」

開催日：令和５年７月２日(日)

第 85 回地質観察会を大船渡市で実施しました。炎天下の中、小中学生を含む 36 名の方々にご参加いただきました。

大船渡市日頃市町周辺には、古生代の浅い海で堆積してできた地層が広く分布しています。中でも日頃市町鬼丸周辺には、石炭紀(約３億6000万～３億年前)の地層と言われている日頃市層と鬼丸層が分布し、これらの地層からは当時生きていた生物の化石が見つかります。

鬼丸採石所

化石採取の場は、株式会社川並様の鬼丸採石所をお借りしました。参加者はハンマーを手に思い思いに岩石を叩きました。予想以上に硬い頁岩に悪戦苦闘しながらも、割れた岩石の中から化石が見つかると歓声が上がりました。腕足類や植物の化石、珍しいものでは二枚貝や三葉虫の化石が見つかり充実した化石採取になったと思われます。

続いて、大船渡市立博物館に場所を移し、学芸員の古澤明輝氏から大船渡市の地質について解説をいただきました。大船渡市内には、今回観察した石炭紀の地層だけではなく古生代のすべての時代（カンブリア紀～ペルム紀）を網羅する地層や岩石が分布しているそうです。今後も新しい発見が期待できる貴重で魅力ある地域なのだと感じました。

化石採取を行う参加者

本観察会に際し、株式会社川並鬼丸採石所　川並二也様、大船渡市立博物館の皆様に多大な御協力を賜りました。心より感謝申し上げます。

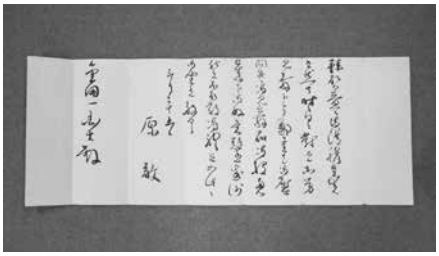
（主任専門学芸調査員　佐藤　修一郎）

■資料紹介

岩手県立博物館デジタルアーカイブから

当館には、30 万点をこえる資料が収蔵されており、資料のデータはデータベース上で管理されています。そのうち約 1,000 点は、「岩手県立博物館デジタルアーカイブ」として、当館ホームページ上で公開されています。今回はその中から、歴史部門の資料を紹介します。

1　金田一国士宛原敬書簡（金田一惣八家資料）



この資料は大正３年（1914）、原敬から、近代岩手の財界をけん引した実業家、金田一国士(くにお)へ送られた書簡です。当時原敬は山本権兵衛(ごんべえ)内閣（第一次）で、総理大臣に次ぐ地位である内務大臣を務めていました。山本内閣は大正デモクラシーの波の中改革を進めますが、海軍の収賄(しゅうわい)事件、ジーメンス事件が発覚。総辞職に追い込まれます。この書状が書かれた大正３年３月２５日は内閣総辞職の翌日、内容は騒動の渦中に金田一が原を慰問したことへのお礼です。この資料から、金田一家と中央政界とのつながりを知ることができます。

2　「アイヌ風俗図」平澤屏山画

この資料は、現在の花巻市大迫(おおはさま)出身の絵師、平澤屏山(びょうざん)の作品です。

平澤は若くして蝦夷地(えぞち)(現在の北海道)に渡り、絵師として活躍しました。この絵は、安政年間（1854-60）に平澤が共に生活した日高・十勝地方のアイヌを描いており、当時のアイヌの風俗を知ることができる資料です。

当館デジタルアーカイブには他にも多くの資料が紹介されています。展示室で見た資料について再度学ぶ、未知の資料と出会うなど、自由にお楽しみください。

（専門学芸調査員　工藤　健）

岩手県立博物館
IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション〈令和5年9月1日～令和5年12月31日〉

お知らせ
●資料整理にともなう休館
資料整理のため、９月１日(金)～９月11日(月)は休館します。
●敬老の日
９月18日(月)の敬老の日は、65歳以上の方の入館料を無料とします。
●文化の日
11月３日(金)の文化の日は、無料で入館できます。

展覧会
● テーマ展「早池峰山の花と森」
令和５年９月23日(土・祝)～12月３日(日)
会場：２階・特別展示室
北上山地の最高峰である早池峰山。世界に一つしかないその自然の魅力を、研究史とともに紹介します。
◆展示解説会
9月24日(日) 15：15～15：45
10月7日(土) 15：30～16：00
10月22日(日)15：15～15：45
会場：特別展示室、当日受付(定員15名)、要入館料
◆文化講演会　当日受付　聴講無料　13：30～15：30
11月3日(金・祝)　講師：工藤　岳先生
(北海道大学地球環境科学研究院　准教授)
◆日曜講座　当日受付　聴講無料　13：30～15：00
11月26日　講師：鈴木まほろ(当館学芸員)
※詳細は下記「県博日曜講座」の欄をご覧ください。

●特別展「ポケモン化石博物館」
令和５年12月19日(火)～令和６年３月３日(日)
会場：１階・いわて自然史展示室
事前予約制
※詳細は当館ホームページで随時更新いたします。

県博日曜講座
第２・第４日曜日　13：30～15：00　当日受付　聴講無料
当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。
*展覧会関連講座
9月 24日「いわての鮮新統に注目して」　講師：佐藤修一郎(当館学芸員)
10月 22日「世界の中の岩手 ―近代紫波を中心に―」
講師：工藤　健(当館学芸員)
11月 12日「南部絵暦を読む ―岩手でうまれた2つの暦―」
講師：川向富貴子(当館学芸員)
*11月 26日「早池峰山の花と森に迫る危機」　講師：鈴木まほろ(当館学芸員)
12月 10日「館蔵品でみる江戸時代のうれる本」
講師：昆　浩之(当館学芸員)
※特別展「ポケモン化石博物館」開催中は、中止とさせていただきます。

第12回博物館まつり
令和５年10月７日(土)・８日(日) ９：30～16：00　場所：本館・屋外
4年ぶりの開催 !! 博物館を味わう2日間です。
【7日】さんさ踊り、鬼剣舞、コーラスなど、岩手の音を楽しむ1日です。
出演：盛岡市 庄ヶ畑郷土芸能振興会(庄ヶ畑さんさ踊り・盛岡市指定無形民俗文化財)、北上市 滑田鬼剣舞保存会(ユネスコ無形文化遺産「風流踊」構成団体)、盛岡市 男性合唱団　松園シルバーダックス
対象：一般
費用：参加無料
参加方法：当日受付
【8日】工作たいけん、スタンプラリーなど、子どもイベントいっぱいの1日です。
対象：一般(工作は小学生以下)
参加方法：工作体験のみ予約制となります。
9月20日(水)から当館HPの専用フォームからお申込みください。
一度に3名まで予約が可能です。キャンセルが出た際には、随時補充いたします。

民俗講座「たいけん！むかしのくらし」
令和５年10月22日(日)　全６回(所要時間25分)
①10：00～　②10：15～　③10：30～　④11：00～
⑤11：15～　⑥11：30～
昔の資料を実際に使用し、イネから米になるまでの過程を学ぶワークショップです。
要入館料(高校生以下無料)
対象：幼児(4歳)～中学生とその保護者
定員：6組　※各回1組(子どもは3名まで)
専用メールで申込。詳細はお問い合わせください。

第86回地質観察会
令和5年10月29日(日) 10：00～15：00　要事前申込
講師：杉山了三氏　場所：一戸町　現地集合・解散
一戸町に見られる新第三紀の珪化木を観察します。
定員：20名程度(小学生は保護者同伴)
参加費：100円
募集期間：9月28日(木)～10月4日(水)　定員充足しだい締切
電子メールまたは往復ハガキで先着順受付。詳細はお問い合わせください。

週末の催し
◆ミュージアムシアター
毎月第1土曜日 13：30～15：00頃　講堂　当日受付　視聴無料
○10月14日　フィルム映画第1弾(実写/108分／一般向け)
イーハトーブの赤い屋根(実写/108分)
○11月4日　フィルム映画第2弾(実写/95分／一般向け)
大いなる旅路
○12月2日　フィルム映画第3弾(アニメ／99分／小学生～一般向け)
MARCO 母をたずねて三千里
※10月は第2土曜日に開催します。

◆チャレンジ! はくぶつかん
毎月第２・第３土曜、日曜　小学生向け 随時受付
チャレンジ! マークをさがして はくぶつかんをたんけん!
9月 16日・17日・18日・23日・24日　テーマ：目(め)
10月 14日・15日・21日・22日　テーマ：山(やま)
11月 11日・12日・18日・19日　テーマ：△(さんかく)
12月 2日・3日・9日・10日　テーマ：紫(むらさき)
※9月は第3・第4土曜、日曜に開催します。
※12月は第1・第2土曜、日曜に開催します。

◆たいけん教室～みんなでためそう～(事前申込制)
毎週日曜日　13：00～14：30　幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生10名程度
さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。
※全プログラム有料です(材料費代／プログラムごと異なります)。
※予約は専用メール(一度に3名まで)で受け付け、応募多数の場合には抽選を行います。詳細は博物館ホームページをご確認ください。

9月	9月はお休みです。	11月	5日　化石のレプリカ 12日　手づくり万華鏡 19日　松ぼっくりのXmasツリー 26日　松ぼっくりのXmasツリー
10月	1日　猫絵馬づくり 15日　スライムであそぼう 22日　カラフルくもづくり 29日　土偶づくり	12月	3日　まゆで干支づくり(辰) 10日　まゆで干支づくり(辰)

利用のご案内
■開館時間　9：30～16：30(入館は16：00まで)
■休 館 日　月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)
※年末年始(12月29日～1月3日)
※9月1日(金)～11日(月)は、資料整理のため休館します。
■入 館 料　一般330(150)円・大学生150(80)円・高校生以下無料
(　)内は20名以上の団体割引料金
※9月18日(月)敬老の日は、65歳以上の方の入館料無料。
※11月3日(金)文化の日はどなたでも入館料無料。
※岩手子育てパスポート所有者で、パスポートに記載のお子様とご一緒に来館された場合は、入館料免除となります.
※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。
※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより
第178号
令和5年9月1日発行

編集　岩手県立博物館
〒020-0102　盛岡市上田字松屋敷34
Tel. (019)661-2831／ Fax. (019)665-1214
発行　公益財団法人岩手県文化振興事業団
〒020-0023　盛岡市内丸13-1
Tel. (019)654-2235／ Fax. (019)625-3595